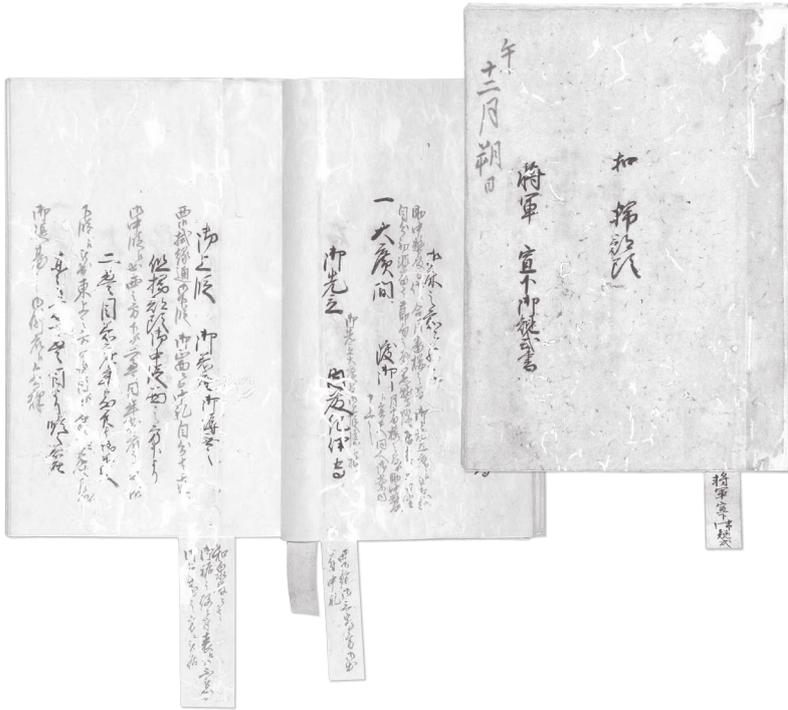


テーマ展



直弼発見! 大老・井伊直弼の職務

江戸城では、徳川幕府により、五節句や將軍代替りなど恒例・臨時の儀式が、数多く執り行われていました。ここでは、大名の官位や所領の大小などによる序列が、儀式での席次や所作に厳密かつ細かく反映されていました。例えば、安政五年(一八五八)に徳川家茂が將軍宣下をうける儀式では、大老・井伊直弼は、將軍の正面で「中礼」をして、大広間の中段西側下から二畳目に着座することになっていました。この直弼大老時代の「城中式日記」には、右に述べたような、儀式の細かい所作に至るまでもが記録されており、儀式での直弼の動きや役割を知ることができます。

3/10(金)
4/11(火)

当館蔵

展覧会
情報

テーマ展

直弼発見!
大老・井伊直弼の職務

3月10日
4月11日

特別公開

国宝・彦根屏風

4月14日
5月16日

テーマ展

煎茶 — 文雅清遊のいとなみ —

5月19日
6月20日

企画展

能面再興の立役者
近代の名工・中村直彦

6月23日
7月25日

国宝・彦根城築城四一〇年祭関連事業

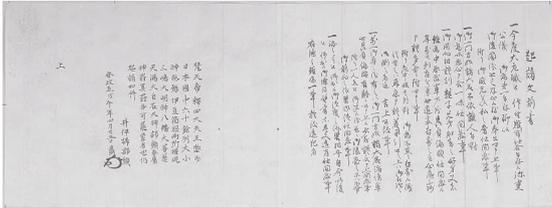
テーマ展 展示室1

3/10 (金) ~ 4/11 (火)

直弼発見!
大老・井伊直弼の職務

井伊家十三代直弼は、安政五年（一八五八）に江戸幕府の大老に就くと、幕閣のトップとして、条約締結や將軍継嗣などの政治課題に取り組んだことはよく知られているところ
です。

しかし、大老の職務はそれだけではありません。政務の議論・判断、幕府行事への出席なども大事な仕事であり、直弼は大老としてさまざまな職務に取り組んでいます。本展では、直弼が、日々江戸城で行っていた仕事を紹介します。



井伊直弼大老就任誓詞控

◎ギャラリートーク◎

日時 3月11日（土）
11時〜、14時〜
講師 早川駿治（当館学芸員）

特別公開 展示室1

4/14 (金) ~ 5/16 (火)

国宝・彦根屏風

彦根藩主井伊家に伝来したことから「彦根屏風」の名で広く親しまれている屏風は、近世初期風俗画の傑出した名品として高く評価されています。毛筋の一本一本、絞り文様の一つ一つに至るまで表現する圧倒的に緻密な筆致、金地を背景とする極めて洗練された構図、江戸時代初期の華やかな風俗や時代を反映した静寂な空気など、多様な魅力あふれる彦根屏風の世界を堪能ください。

彦根屏風は、後世に写しやアレンジ作品が多く制作されました。本展では、幕末から明治時代に描かれたアレンジ作品一点を併せて展示します。



風俗図（彦根屏風）部分

◎ギャラリートーク◎

日時 4月15日（土）
11時〜、14時〜
講師 高木文恵（当館学芸員）

テーマ展 展示室1

5/19 (金) ~ 6/20 (火)

煎茶
―文雅清遊のいとなみ―

煎茶とは、茶の葉を煎じて飲む茶で、抹茶とは異なる自由な作法や道具立てに特色があり、江戸時代中期以降、文雅清遊を愛する文人達を中心に大いに流行しました。その流行は大名家にもおよび、井伊家十二代直亮や十三代直弼も、煎茶を嗜んだことが知られています。

本展では、井伊家伝来品を中心に、当館所蔵の急須や煎茶碗、水注など、煎茶道具の優品を紹介いたします。



紫泥六角水注

◎ギャラリートーク◎

日時 5月20日（土）
11時〜、14時〜
講師 奥田晶子（当館学芸員）



赤絵金彩唐人物図煎茶碗
鳴鳳絵付

6/23 (金) ~ 7/25 (火)

国宝・彦根城築城四一〇年祭関連事業

能面再興の立役者

近代の名工・中村直彦

中村直彦（一八七七〜一九四五）は、明治後期から昭和前期に活躍した能面作家です。東京美術学校で彫刻を学び、伝統的を踏まえつつ、新たな感覚の能面を制作しました。当時、制作する者がほとんど無く、能面は廃れかけていました。それを再興した立役者の一人が、直彦です。能を愛好した井伊家十五代直忠（一八八一〜一九四七）はそのパトロンの一で、当館には直彦の能面六十五点が収蔵されています。本展では、直彦の能面とその活動について紹介します。



能面小面 中村直彦作



能面蜘蛛 中村直彦作

ギャラリートーク

日時 6月24日(土) 11時〜14時

講師 茨木恵美(当館学芸員)

コラム

井伊直虎から井伊直政へ

現在、NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」が放映中です。主人公の井伊直虎は、井伊直政（彦根藩井伊家初代当主）の養母であったとされていますが、いまだ謎の多い人物です。それは、井伊直虎についての史料がほとんど残っていないためです。ただし、数少ない史料からは次のような人物であったと考えられています。

井伊直虎（？〜一五八二）は、遠江国井伊谷（現静岡県浜松市）の国衆（土着の地域領主）・井伊直盛の娘として生まれました。戦国時代の井伊谷周辺では、今川・武田・徳川などの有力な戦国大名が覇権を争っており、井伊氏もその戦乱に巻き込まれていきます。永禄三年（一五六〇）、井伊直盛が今川方として従軍していた桶狭間の戦いで戦死、永禄五年には、井伊直親が今川方によって殺害されるなど、井伊氏が次々と非業の死を遂げていき、井伊氏の跡継ぎは幼少の直政しか残っていませんでした。そこで直虎は、直政が成長するまでの中継ぎとして、永禄五年から井伊氏当主の立場にあり、以後天正三年（一五七五）まで、井伊氏が支配する地域の経営にたずさわりました。

直虎が養い育てた直政は、天正三年、徳川家康の家臣となります。以後直政は、赤備えの部隊を率い、小牧・長久手の戦い（一五八四年）や関ヶ原の戦い（一六〇〇年）などで武功を重ね、ついには彦根藩を創設するまでに至ります。

直虎が井伊氏苦難の時代を支え、直政が徳川家康の下で活躍を続けたことで、井伊氏は彦根藩三十万石の大名に成長していったのです。（青木俊郎）



井伊直政画像部分

井伊氏略系図

※代数は、彦根藩主の代数です。



金亀玉鶴



井伊直亮と拵

拵とは、鞘や柄、鐺などの刀装具のことです。彦根藩井伊家十二代の直亮による加筆や付紙がある「腰物鎧長刀類拵書帳」(以下、「拵帳」)には、二百六十口を超す刀身とそれに付随する拵の記事が納められています。この中には、鞘に熨斗鮑を貼るといふ珍しい装飾が施された大小刀および小刀の拵の記事があり、当館には、これに該当する作品が収蔵されています(写真)。「拵帳」の記述から、本作の鞘や一部の金具の意匠に直亮の意向が反映されていること、さらに三口一腰の拵が同時に制作されたものではなかったことが判明しました。ここでは、本作の制作順を紹介するとともに、そこに見られる直亮の意識について考えてみたいと思います。

もともと、この一腰の拵にはそれぞれ蠟色塗の鞘が備わっていましたが、天保九年(一八三八)一月に、小刀の替拵が、熨斗鮑を巻いた鞘と日の出文様の鐺などを組み合わせて新たに誂えられました。鞘に用いられた熨斗鮑は、十二代將軍家慶から同年正月の具足祝の折に直亮が拝領したものです。「拵帳」には、この鞘のデザインを「名付昇降龍巻と云

ふ」とあり、鞘に巻き付けた二本の熨斗鮑をそれぞれ昇龍と降龍に見立てていたようです。

この装飾が気に入ったのででしょうか。直亮は、半年後の八月に、大小の鞘も同様に熨斗鮑を用いたものに替えています。熨斗鮑を昇龍・降龍に見立てる点は同じですが、この二口は表に二本、裏に一本の熨斗鮑を直線的に貼ったデザインで、直亮はこれを「這龍着せと云ふ」と記しています。この大小の熨斗鮑は、「拵帳」に当年(天保九年)までの具足祝で、先代の將軍家斉から拝領した旨が記されています。こうして半年の間に、具足祝で下賜された熨斗鮑をあしらった三口一腰の拵ができたのです。

さて、正月の具足祝で拝領した熨斗鮑というめでたい品を、直亮はどのような考えのもと、拵に取り入れたのでしょうか。ここで注目したいのが、最初に制作された小刀の替拵です。替拵用の鐺には、松と千鳥、日の出という吉祥の意匠が表されています。一方、鞘の鮑については、「当春、御代初而、正月十一日御具足御祝之節」に家慶から拝領したことを「拵帳」に明記しています。制作時期と素材の由緒を詳細に記した作品は、「拵帳」の中でも本作のみです。「御代初而」という文言も留意したい点で、前年の九月に將軍となった家慶にとつて、初めて迎える具足祝であったことを強調しているかのようです。天保六年(一八三五)

から十二年(一八四二)まで直亮は大老職にあり、儀礼の次第を記した「御袖裏留」には、天保七年から十年に行われた具足祝の次第が残っています。それによると、毎年、大老の直亮のみが將軍から熨斗鮑を拝領していたことが分かります。その中で、天保九年に家慶から拝領した熨斗鮑だけが、わずか一月後に替拵に用いられ、しかも吉祥文様の鐺と新たに組み合わせられたのです。この半年後には、家斉から拝領した熨斗鮑をあしらった大小刀の鞘も作られたわけですが、鞘とは区別をしているのは明らかです。これらの点から、直亮が、天保九年の具足祝で新たな將軍からの拝領を特別視していたことは間違いないでしょう。

「拵帳」には、本作以外にも直亮の意向を映した拵と考えられるものが散見します。その意向を探るためにも、今後も読み解いていきたいと思えます。

(古幡昇子)



青貝高敷熨斗塗込鞘大小拵

発売中!

オリジナル ミュージアムグッズ

皆さん、彦根城博物館オリジナルのミュージアムグッズをご存知ですか?

国宝・彦根屏風や井伊家当主の赤備えの甲冑、雛道具などをデザインしたクリアファイルや絵はがきに加え、この春には、井伊家伝来の更紗をモチーフにしたトートバッグも新たに仲間入りしました。いずれも当館でしか手に入らないオリジナルグッズです。

このグッズは、当館のミュージアムショップで販売しています。ご来館の際には、ぜひミュージアムショップにお立ち寄りください。



能・狂言

◎ 水無月狂言の集い ◎

■ 開催日時

6月24日(土) 18時開演(17時30分開場)

■ 場所

当館能舞台

■ 演目

大蔵流狂言

【解説】 茂山 宗彦

「船渡賀」 茂山 童司ほか

「伊文字」 茂山 逸平ほか

「梟」 茂山 千作ほか

■ チケット

全席指定

A席(正面) 3千5百円

B席(脇正面) 3千円

5月24日(水) 発売開始

*開演時刻・演目・出演者等は、都台により、やむなく変更することがございますので、ご了承ください。

*チケットは、当館受付およびお電話にてお求めいただけます。(発売初日は館内販売9時〜、電話予約は10時〜)

*未就学児の方はご入場いただけません。



募集

◎ 「古文書のみかた」 受講生募集 ◎

古文書解読を基礎から学ぶ教室「古文書のみかた」の受講生を募集します。

■ 開講日時

5月13日、5月27日、6月10日、7月1日、7月22日、8月19日、9月16日の14時〜16時(全7回、いずれも土曜日)

■ 場所

当館講堂

■ 定員

60名(応募者が定員を超えた場合は抽選)

■ 資料代

500円

■ 申込方法

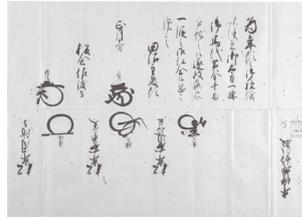
往復はがき(1人につき1枚)の往信に住所・氏名・電話番号を、返信の宛名面に住所・氏名を明記の上、お申し込みください。

■ 申込期間

3月31日(金)まで

*当日消印有効

*抽選の場合、4月11日(火)以降に結果を通知します。



昨年度購読史料(老中奉書)

◎ 平成29年度 支援スタッフ募集 ◎

当館では、事業をサポートしていただく支援スタッフを募集しています。さまざまな人と触れ合いながら、一緒に博物館を盛り上げてみませんか？

■ 活動内容

① 教育普及事業

小学生対象体験講座の運営スタッフ(体験メニューの準備、指導補助)

② 調査研究事業

古文書解読ボランティア(当館所蔵の彦根藩井伊家文書等の解読)

*当館開催教室「古文書のみかた」を終了された方、または同程度の解読力を有する方が対象です。登録希望の方は、事前に学芸史料課古文書解読ボランティア担当へお問い合わせください。

■ 申込方法

当館「支援スタッフ」係まで、お電話にてご応募ください。(8時30分〜17時)

■ 申込期間

3月17日(金)まで

*4月以降に開催する研修へ参加いただけます(日付未)。

*①、②の事業を兼ねて登録いただくことも可能です。



◎ 友の会 会員募集 ◎

博物館をより身近に感じることができ「友の会」に入会して、歴史・文化との出会いを楽しみませんか。

■ 会員特典

① 会員証で彦根城博物館の常設展ほか、展覧会が観覧できます。

② 友の会ニュースや博物館だより等をお送りします。

③ 友の会主催の講演会や現地研修等に参加できます。

■ 年会費

一般会員

2千円(高校生は1千円)

ジュニア会員(小・中学生)

5百円

賛助会員

1口以上(1口…1万円)

■ 会員期間

入会時から平成30年3月31日まで

■ 入会方法

当館受付にある入会申込書をご利用ください。ご希望の方は郵送もいたしますので、お問い合わせください。

■ 問い合わせ先

彦根城博物館友の会事務局(中野)

*友の会専用電話

0749-47-5787

*毎週水曜日9時〜17時在館

スケジュール 3月～6月

6月	5月	4月	3月
<p>24土 能面再興の立役者 近代の名工・中村直彦</p> <p>24土 能。鑑言 水無月狂言の集い ギョウリトク</p> <p>10土 教室 古文書のみかた③</p>	<p>27土 教室 古文書のみかた②</p> <p>20土 煎茶 一文雅清遊のいとなみー ギョウリトク</p> <p>13土 教室 古文書のみかた①</p>	<p>15土 国宝・彦根屏風 ギョウリトク</p>	<p>11土 直弼発見！ 大老・井伊直弼の職務 ギョウリトク</p> <p>8水・9木 休館</p>
企画展 能面再興の立役者 近代の名工・中村直彦 6/23～7/25	テーマ展 煎茶 一文雅清遊のいとなみー 5/19～6/20	特別公開 国宝・彦根屏風 4/14～5/16	テーマ展 直弼発見！ 大老・井伊直弼の職務 3/10～4/11
常設展示 “ほんもの”との出会い			
6/21・22 展示替により一部休室	5/16～18 展示替により一部休室	4/12・13 展示替により一部休室	3/1～7 工事等により一部休室

*「古文書のみかた」は事前申込制です。

7月～12月の展覧会

■企画展
国宝・彦根城築城四一〇年祭関連事業
能面再興の立役者
近代の名工・中村直彦
6月23日(金)～7月25日(火)

■テーマ展
日本刀鑑賞のスズメ
—井伊家伝来名刀尽—
7月28日(金)～9月5日(火)

■テーマ展
雅な遊び
9月8日(金)～10月11日(水)

■テーマ展
麗しの雅楽器
12月8日(金)～1月8日(月・祝)
*12月25日～31日は休館

■企画展
2017年NHK大河ドラマ
「おんな城主直虎」特別展
10/21(土)～11/28(火)

■開催期間
3月18日(土)～12月10日(日)

■主催
国宝・彦根城築城四一〇年祭推進委員会

彦根市では、彦根城の天守が完成して四一〇年の節目を迎えるあたり、「国宝・彦根城築城四一〇年祭」を開催します。これに合わせ、彦根城博物館でも、特別展をはじめとする関連事業を実施します。

彦根市では、彦根城の天守が完成して四一〇年の節目を迎えるあたり、「国宝・彦根城築城四一〇年祭」を開催します。これに合わせ、彦根城博物館でも、特別展をはじめとする関連事業を実施します。